

## 高齢受刑者に関する研究（その1）

矯正協会附属中央研究所 廣橋 秀山  
濱井 郁子  
田島 秀紀  
松村 猛  
中勢 直之

キーワード：高齢受刑者，受刑態度，意識調査，更生意欲，合理化，中和化

### I はじめに

我が国における急速な高齢化社会の到来は、行刑施設にとっても例外ではない。表1は、行刑施設の過去20年間の5か年毎の各年末における受刑者数を年齢帯別に示したものである。この表で見る限りにおいても特に顕著なことは、20歳未満から40歳台までの受刑者数が横這いないし漸減傾向にあるのに対し、50歳台以上は、20年間に50歳台2.9倍、60歳台4.7倍、70歳以上5.0倍と高齢になるほど増加傾向にあることがわかる。そして、このような高齢者の増加傾向は、一般社会の高齢化と軌を一にして継続していくものと予想される。

一方、高齢受刑者の処遇を巡っては、種々の問題が山積している。例えば、健康上の理由から日常生活指導や作業賦課に特別の配

慮を必要とすることが多いこと、加齢に伴って人格が柔軟性を欠き一般処遇に乗りにくい面が増えていること、累犯の場合には保護環境の調整に難渋し帰住先や社会復帰後の就職が思いのままにならないことなどが挙げられる。そして、行刑施設においては、既にこれらの問題に対処すべく多数の高齢受刑者を収容する施設を中心として色々な処遇が展開されている。すなわち、収容面からの集禁工場や居室の設置、作業面からの科程の減や作業時間の短縮、バリアフリーを基本とした設備や備品の整備、給食と品の増、健康管理面からの定期健診・検査の増、給食面における特別食の給与や調理の工夫、リハビリ室の設置や運動器具の整備、生活指導面からのこまめな面接や教化行事の増、保護・福祉関係機関との綿密な連絡調整などである。

表1 年齢帯別受刑者の推移

	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	総数	60歳以上 受刑者数	受刑者60歳 以上比率	国内60歳以上 人口比率
昭和55年	55	10,479	17,166	10,115	3,148	740	132	41,835	872	2.1%	12.9%
59年	54	9,650	16,760	12,570	5,122	1,021	169	45,346	1,190	2.6%	14.3%
平成元年	32	9,315	11,590	13,502	6,348	1,578	250	42,615	1,828	4.3%	16.9%
6年	32	8,145	9,067	10,730	6,759	2,333	359	37,425	2,692	7.2%	19.9%
11年	31	9,728	12,282	9,979	9,148	3,495	659	45,322	4,154	9.2%	22.7%

注) 1 各年末の被収容受刑者数である。

2 矯正統計年報による。

しかし、将来の高齢受刑者の増加を考慮に入れると、現行の処遇方策だけでは十分とは言えない。また、各施設の努力とは別に、全国単位若しくは管区単位の集禁施設の設置、処遇基準の設定、職業訓練種目の開発、保護関係機関とタイアップした国立更生保護施設開設への働きかけといった事項について、早急な検討が必要と思われる。

このような高齢受刑者の処遇を巡る背景のもと、行刑施設が直面している処遇上の問題点を浮き彫りにすることや、高齢受刑者の外面的、内面的特性を可能な限り様々な角度から検討することとしたい。

## II 方法

### 1 調査実施時期

平成11年10月初旬から11月初旬まで

### 2 調査対象庁

全国の刑務所のうち、平成11年5月1日現在で、65歳以上の受刑者を9名以上収容している施設40庁。

### 3 調査対象者

調査時に年齢が65歳以上で、分類調査終了後1か月以上経過した者のうち、各施設で称呼番号が偶数の者。

### 4 調査内容

調査票は、職員用調査票、受刑者用調査票及び施設用調査票の3種類から成っている。

#### 職員用調査票

調査対象となった受刑者について、次の26項目について問うた。なお、当該受刑者が拒否した場合または調査が不可能だった場合にも、職員用の調査票については記載を依頼した。

- 1 性別
- 2 調査時年齢
- 3 罪名（主たるものを一つ）
- 4 入所度数
- 5 本件犯行時年齢

- 6 犯行の動機
- 7 分類級
- 8 言渡刑期
- 9 再犯期間
- 10 共犯者の有無及び有の場合の関係
- 11 被害者との関係
- 12 暴力組織及び右翼団体との関係
- 13 初発非行・犯罪年齢
- 14 教育程度
- 15 職業
- 16 居住状況
- 17 引受人
- 18 引受状況
- 19 就業状況
- 20 懲罰の回数
- 21 身体状況
- 22 精神障害等
- 23 休養措置等
- 24 投薬（継続的なもの）
- 25 知能（IQ相当値）
- 26 法務省式人格目録（MJPI）得点

#### 受刑者用調査票

性別、年齢のほか、①刑務所内の生活についての印象、②出所後の悩み、③今一番大切なもの、④出所後の生活費の見込み、⑤今回刑務所に入るようになった理由、⑥出所後の見通し、⑦更生意欲、⑧住民票や年金についての知識、⑨犯罪行動の合理化等についての質問からなっている（参考資料）。

#### 施設用調査票

各庁に1部ずつ送付し、処遇部門の責任者に記載を依頼した。①高齢受刑者の処遇にあたって苦勞すること、②高齢受刑者の社会復帰に大切なことの2点について自由記述式とした。

## III 結果と考察

有効な資料が得られたのは、男子760名、女

子61名の計821名であった。このうち、受刑者が調査を拒否したか、または調査が不能であった者は、男子40名、女子0名の、計40名であった。ただ、そうした対象者でも職員用調査票の記載がある者については、集計に含ませている。

1 性別・入所度数別に見た高齢受刑者の特徴

これらの対象者の入所度数は表2のとおりである。最多入所度数は、男子で39回、女子で23回である。1988年の法務総合研究所の研究と比較検討する目的もあることから、男子については、先行研究にならって、入所度数を「初入者」、「2～5入者」、「6～9入者」、「多数回（10回以上）入所者」の4つの層に分け（表3、ただし、女子については、調査人数の関係から4層には分けていない。）、基本的属性、犯罪状況等、生活状況及び心身の状況について集計、検討した。

表2 入所度数別内訳

	全体	男子全体	女子全体
有効回答数(人)	821	760	61
%	100.0	100.0	100.0
1 度	18.9	17.0	42.6
2 "	5.4	5.5	3.3
3 "	5.2	5.1	6.6
4 "	3.3	3.4	1.6
5 "	4.6	4.9	1.6
6 "	4.5	4.6	3.3
7 "	5.2	5.4	3.3
8 "	6.6	6.4	8.2
9 "	4.6	4.6	4.9
10 "	4.4	4.6	1.6
11 "	4.3	3.9	8.2
12 "	6.9	7.0	6.6
13 "	5.8	5.9	4.9
14 "	3.8	4.1	-
15 "	5.0	5.4	-
16 "	2.8	3.0	-
17 "	2.1	2.1	1.6
18 "	2.1	2.2	-
19 "	0.9	0.9	-
20～29度	3.3	3.4	1.6
30度以上	0.4	0.4	-

表3 入所度数別男女比

	全体	初入者	2～5入者	6～9入者	多数回入所者
有効回答数(人)	821	155	152	172	342
%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
男	92.6	83.2	94.7	93.0	95.6
女	7.4	16.8	5.3	7.0	4.4

(1) 基本的属性

㊦ 調査時年齢

男子全体では、65～69歳が64.5%、70～74歳が26.4%、75～79歳が7.5%、80～84歳が1.1%、85歳以上が0.5%となっている。女子では、65～69歳が62.3%、70～74歳が23.0%、75～79歳が11.5%、80～84歳が3.3%、85歳以上は0%となっている。最高年齢者は、男子で90歳、女子で81歳である。入所度数別に調査時の平均年齢を見ると、初入者69.3歳、2～5入者68.7歳、6～9入者68.1歳、多数回入所者69.3歳であり、4群の間に目立った差は見られない。

㊧ 犯行時年齢

男子全体では、59歳以下が12.8%、60歳代が70.1%、70歳代が16.2%、80歳代が0.9%、女子では、59歳以下が11.5%、60歳代が65.5%、70歳代が21.3%、80歳代が1.6%となっている。犯行時の最高年齢は、男子89歳、女子で80歳である。男子について入所度数別に本件時の平均年齢を見ると、初入者62.2歳、2～5入者59.0歳、6～9入者63.2歳、多数回入所者67.1歳であり、多数回入所者の犯行時年齢が他に比べてやや高くなっている。

(2) 犯罪状況等

㊦ 罪名

表4-1は、調査対象者について罪名別の構成比を見たものである。男子全体では、窃盗が42.5%、殺人18.9%、詐欺10.1%、覚せい剤9.5%、強盗5.1%、放火3.3%、傷害2.4%の順で、業過や恐喝、交通犯罪（業務上過失致死傷、道路交通法違反）、性犯罪（強姦、強制わいせつ）はそれぞれ1%にも満たない。

表4-1 罪名別内訳

	男 子					女 子 全 体
	全 体	初入者	2~5入者	6~9入者	多数回入所者	
有効回答数 (人)	760	129	144	160	327	61
%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
放火	3.3	3.9	4.2	3.8	2.4	8.2
強制わいせつ	0.3	0.8	-	-	0.3	-
強姦	0.5	2.3	0.7	-	-	-
殺人	18.9	48.8	33.3	16.3	2.1	16.4
傷害	2.4	2.3	4.2	1.3	2.1	-
業過	0.7	2.3	0.7	0.6	-	-
窃盗	42.5	8.5	16.7	44.4	66.4	49.2
強盗	5.1	8.5	8.3	4.4	2.8	-
詐欺	10.1	3.1	12.5	10.0	11.9	14.8
恐喝	0.1	-	-	0.6	-	-
覚せい剤	9.5	1.6	13.9	16.3	7.3	6.6
道路交通法	0.3	1.6	-	-	-	-
その他	6.3	16.3	5.6	2.5	4.6	4.9

表4-2 罪名別内訳 (法総研 1987)

	男 子					女 子 全 体
	全 体	初入者	2~5入者	6~9入者	多数回入所者	
有効回答数 (人)	1,024	134	194	200	496	56
%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
放火	3.1	8.2	5.2	1.5	1.6	3.6
住居侵入	0.5	-	-	-	1.0	-
強制わいせつ	0.7	0.7	1.5	-	0.6	-
強姦	0.6	0.7	-	1.0	0.6	-
殺人	9.5	40.3	12.9	4.0	2.0	3.6
傷害	1.2	0.7	1.5	1.5	1.0	-
業過	0.7	5.2	-	-	-	-
窃盗	55.1	9.7	29.9	67.0	72.4	62.5
強盗	3.5	3.7	4.6	4.0	2.8	1.8
詐欺	13.2	11.9	20.6	5.5	13.7	14.3
恐喝	0.6	1.5	0.5	1.0	0.2	-
横領・背任	0.8	3.7	1.0	0.5	-	-
覚せい剤	7.8	6.7	17.0	11.0	3.2	14.3
道路交通法	0.7	1.5	1.5	1.0	-	-
その他	2.1	5.5	3.8	2.0	0.9	-

次に、入所度数別に見ると、初入者では、殺人が約半数（48.8%）を占め、窃盗及び強盗がそれぞれ8.5%、放火3.9%となっている。2～5入者では、殺人が33.3%、窃盗が16.7%、覚せい剤が13.9%、詐欺が12.5%、強盗が8.3%と続いており、6～9入者では、窃盗が44.4%、殺人及び覚せい剤がそれぞれ16.3%、詐欺が10.0%の順になり、多数回入所者では、窃盗の割合が圧倒的に高くなって（66.4%）、詐欺11.9%、覚せい剤7.3%がこれに続いている。

女子では、窃盗が約半数（49.2%）を占め、続いて、殺人16.4%、詐欺14.8%、放火8.2%、覚せい剤6.6%の順になっている。

ちなみに、1987年に行われた法務総合研究

所の調査結果（表4-2）と比較すると、1987年には、男子の2～5入者で、窃盗（29.9%）、詐欺（20.6%）、覚せい剤（17.0%）、殺人（12.9%）の順であったものが、今回殺人が33.3%と多くなっていることが目立つ。また、女子でも殺人の割合が目立って高くなっている（1987年：3.6%、今回：16.4%）。

(イ) 刑期

表5は刑期別に構成比を見たものである。全体では、男女とも、6月を超えて3年以下の者が約半数を占め、3年を超えて5年以下、更に、5年を超えて10年以下と続いている。入所度数が多くなるほど、6月を超えて3年以下という比較的短い刑期に偏るようになっている。

表5 言渡刑期別内訳

	男 子					女 子 全 体
	全 体	初入者	2～5入者	6～9入者	多数回入所者	
有効回答数（人）	(1)759	(1)128	144	160	327	61
%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
6ヶ月以下	0.3	0.8	0.7	-	-	-
3年以下	49.1	27.3	38.2	56.3	59.0	47.5
5年以下	26.2	19.5	18.1	21.3	34.9	41.0
10年以下	10.3	25.8	13.2	9.4	3.4	-
10年を超える	5.0	11.7	7.6	4.4	1.5	1.6
無期	9.1	14.8	22.2	8.8	1.2	9.8

注) 1 2刑以上ある場合は合計年数である。  
 2 ( )内の数字は実数の欠損値で、外数である。  
 3 ( )がある場合のパーセントは欠損値を除く。

(ウ) 再犯期間

表6は、調査対象者のうち、再入者619名について再犯期間を見たものである。男子全体では6か月以下が31.0%と最も多く、ついで3年以下27.0%と、短い期間の者が多い。一方、女子は3年以下が最も多くなっている。男子について、入所度数別に見ると、2～5入者は他と少し様相を異にし、「10年を超える」が最も多くなっている。

(エ) 共犯関係

表7は、共犯者の有無と共犯者との関係を見たものである。男子全体では共犯者がいない者が87.1%、女子でも75.4%を占めている。男子で、入所度数別に見ると、多数回入所者では93.6%が「共犯者なし」であり、単独での犯行が非常に多くなっている。共犯者がいる場合では、「友人・知人」がどの層でも最も多い。

表6 再犯期間別内訳

	男 子					女 子 全 体
	全 体	初入者	2~5入者	6~9入者	多数回入所者	
有効回答数 (人)	(15)745	(3)126	(3)141	(2)158	(7)320	61
%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
なし	16.9	100.0	-	-	-	42.6
6ヶ月以下	31.0	-	12.8	25.9	53.8	11.5
3年以下	27.0	-	21.3	40.5	33.4	23.0
5年以下	6.6	-	9.2	12.0	5.3	8.2
10年以下	6.4	-	12.1	8.2	5.6	6.6
10年を超える	12.1	-	44.7	13.3	1.9	8.2

注) 1 ( ) 内の数字は実数の欠損値で、外数である。

2 ( ) がある場合のパーセントは欠損値を除く。

表7 共犯者別内訳

	男 子					女 子 全 体
	全 体	初入者	2~5入者	6~9入者	多数回入所者	
有効回答数 (人)	760	129	144	160	327	61
%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
なし	87.1	81.4	79.9	85.0	93.6	75.4
家族親戚	0.7	1.6	-	0.6	0.6	6.6
恋人愛人	0.9	0.8	-	1.3	1.2	3.3
友人知人	6.4	8.5	12.5	6.9	2.8	13.1
職場関係	0.9	3.1	0.7	0.6	0.3	1.6
暴力組織関係者	2.5	3.1	4.9	3.8	0.6	-
顔見知り	1.2	0.8	1.4	1.9	0.9	-
その他	0.3	0.8	0.7	-	-	-

#### (イ) 被害者との面識関係

表8は、被害者との面識の有無とある場合の関係を見たものである。入所度数によって、傾向が大きく異なっており、初入者では、「面識なし」が23.3%であるのに対し、入所度数

が高くなるに従って「面識なし」が増加し、多数回入所者では84.4%と高率になっている。面識がある場合の関係は、初入者で、「家族・親戚」が最も多い。

表8 被害者との関係

	男 子					女 子 全 体
	全 体	初入者	2~5入者	6~9入者	多数回入所者	
有効回答数 (人)	760	129	144	160	327	61
%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
面識なし	62.4	23.3	42.4	66.9	84.4	55.7
家族親戚	5.3	23.3	4.9	0.6	0.6	6.6
恋人愛人	2.2	3.1	6.3	1.9	0.3	1.6
友人知人	7.6	19.4	13.2	5.6	1.5	16.4
職場関係	3.8	7.8	6.9	2.5	1.5	8.2
暴力組織関係者	1.2	0.8	2.1	1.9	0.6	-
顔見知り	4.6	10.9	11.1	2.5	0.3	3.3
その他	2.8	6.2	1.4	2.5	2.1	1.6
被害者なし	9.2	3.9	11.8	14.4	7.6	6.6
不明	0.9	1.6	-	1.3	0.9	-

(カ) 暴力組織との関係

表9にあるように、暴力組織との関係がある者は少ない。全体で見ると、男子で13.4%、女子で皆無である。男子について、入所度数別に見ていくと、初入者では関係がある者は非常に少なく、6～9入者、及び多数回入所者でも、「元構成員」が1割を超える程度である。

(ケ) 初発非行・犯罪年齢

表10は、初発非行・犯罪時年齢について見たものである。男子全体では、20歳未満に30%近くの者が非行・犯罪を犯し、30歳までには70%近くが非行・犯罪に手を染めている。入

所度数別では、20歳未満で非行・犯罪に及んだ者は、初入者3.1%、2～5入者25.2%、6～9入者34.8%、多数回入所者42.1%、30歳未満で非行・犯罪に及んだ者は、初入者14.8%、2～5入者67.2%、6～9入者75.9%、多数回入所者92.9%となっており、入所度数が高い者ほど、若年時から非行・犯罪に及んでいることが分かる。一方、60歳以上で初めて犯罪に及んだ者は、多数回入所者にはまったくおらず、6～9入者でも1%に満たないが、初入者の半数以上は60歳以上になって初めて犯罪に及んでおり、再入者とかなり異なっていることが分かる。

表9 暴力組織との関係

	男 子					女 子 全 体
	全 体	初入者	2～5入者	6～9入者	多数回入所者	
有効回答数 (人)	760	129	144	160	327	61
%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
なし	86.6	95.3	85.4	78.8	87.5	95.1
組織団体長	0.9	1.6	1.4	1.3	0.3	-
幹部	1.8	0.8	3.5	2.5	1.2	-
構成員	0.4	-	-	1.9	-	-
準構成員	0.3	-	-	-	0.6	-
元構成員	8.8	-	7.6	14.4	10.1	-
交流のみ	1.2	2.3	2.1	1.3	0.3	-
不明	-	-	-	-	-	4.9

表10 初発非行・犯罪年齢別内訳

	男 子					女 性 全 体
	全 体	初入者	2～5入者	6～9入者	多数回入所者	
有効回答数 (人)	(6)754	(1)128	(1)143	(2)158	(2)325	61
%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
15歳未満	3.8	-	1.4	5.7	5.5	4.9
20歳未満	26.9	3.1	23.8	29.1	36.6	8.2
30歳未満	40.5	11.7	42.0	41.1	50.8	21.3
40歳未満	9.5	14.1	11.9	10.8	6.2	18.0
50歳未満	5.2	6.3	8.4	10.1	0.9	14.8
60歳未満	3.8	10.2	8.4	2.5	-	8.2
65歳未満	4.9	25.0	3.5	-	-	11.5
65歳以上	5.3	29.7	0.7	0.6	-	13.1

注) 1 ( ) 内の数字は実数の欠損値で、外数である。

2 ( ) がある場合のパーセントは欠損値を除く。

女子では、20歳未満で非行・犯罪に及んだ者は13.1%、30歳未満で非行・犯罪に及んだ者は34.4%であり、一方、60歳以上で初めて犯罪を犯した者は24.6%となっている。

### (3) 生活状況

#### ㌸ 教育程度

表11は、教育程度について見たものである。男子全体では、高校卒業以上の者が16.9%で、最も多いのが「中学校卒業」で33.9%である。女子では、高校卒業以上の者が22.9%、最も

多いのが、「中学校卒業」で24.6%、続いて「小学校未修了」が21.3%となっており、小学校も終えていない者が相当数いることが示されている。

男子について入所度数別に見ると、高校卒業以上の割合は、初入者30.3%、2～5入者23.7%、6～9入者15.0%、多数回入所者8.5%であり、入所度数が高くなるほど、高学歴の者が少なくなっている。

表11 教育程度内訳

	男 子					女 子 全 体
	全 体	初入者	2～5入者	6～9入者	多数回入所者	
有効回答数 (人)	760	129	144	160	327	61
%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
小学校未修了	10.2	4.7	6.3	6.9	13.8	21.3
小学校卒業	24.0	28.7	22.9	21.9	24.5	19.7
中学校未修了	6.3	2.3	6.3	8.8	6.7	6.6
中学校卒業	33.9	30.2	36.8	34.4	35.5	24.6
高校中退	8.6	3.9	4.2	13.1	11.0	4.9
高校卒業	10.1	18.6	11.8	10.0	4.9	16.4
大学中退	2.3	1.6	5.6	2.5	1.2	1.6
大学卒業	2.4	8.5	2.8	0.6	0.9	1.6
その他	0.6	-	0.7	1.3	0.6	-
不就学	1.1	1.6	1.4	0.6	0.6	3.3
不明	0.4	-	1.4	-	0.3	-

表12 居住状況別内訳

	男 子					女 子 全 体
	全 体	初入者	2～5入者	6～9入者	多数回入所者	
有効回答数 (人)	(2)758	129	(1)143	160	(1)326	61
%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
定住	48.0	79.8	62.2	51.3	27.6	93.4
住所不定	51.1	18.6	36.4	48.1	71.8	6.6
不明	0.9	1.6	1.4	0.6	0.6	-

注) 1 ( ) 内の数字は実数の欠損値で、外数である。

2 ( ) がある場合のパーセントは欠損値を除く。

#### (イ) 居住状況

表12は、居住状況を見たものである。定住者は、女子では93.4%と非常に高率であるが、男子では、初入者が79.8%であるものの、入

所度数が増すにつれて、2～5入者62.2%、6～9入者51.3%、多数回入所者27.6%と急激に減少している。



(ウ) 職業

表13は、対象者の刑務所入所前の職業を見たものである。男子全体では無職が65.9%、女子では77.0%となっている。男子について、「無職」及び「半徒食」を合わせた、定職に就いていない者の割合を、入所度数別に見ると、初入者50.4%、2～5入者57.0%、6～

9入者71.3%、多数回入所者86.2%となっている。定職がある場合、どの層でも「労務作業」が最も多くなっているが、そうした中で、初入者に「管理的職業」の者が12.4%と比較的多くいることが他と異なっていて目を引く。

表13 職業別内訳

	男 子					女 子 全 体
	全 体	初入者	2～5入者	6～9入者	多数回入所者	
有効回答数 (人)	760	129	144	160	327	61
%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100
専門的技術的職業	1.6	4.7	2.8	1.3	-	-
管理的職業	3.0	12.4	4.9	-	-	6.6
事務	1.1	1.6	0.7	1.9	0.6	1.6
販売	2.5	3.1	4.2	5.0	0.3	1.6
サービス	2.8	5.4	4.9	2.5	0.9	4.9
保安職業	0.3	-	-	0.6	0.3	-
農林漁業	1.8	5.4	3.5	-	0.6	-
運輸通信	0.8	3.1	-	0.6	0.3	-
労務作業	13.7	14.0	20.8	15.0	9.8	8.2
非合法的職業	0.5	-	1.4	0.6	0.3	-
半徒食	5.5	2.3	6.3	5.0	6.7	-
無職	65.9	48.1	50.7	66.3	79.5	77.0
不詳	0.5	-	-	1.3	0.6	-

表14 引受人別内訳

	男 子					女 子 全 体
	全 体	初入者	2～5入者	6～9入者	多数回入所者	
有効回答数 (人)	(2)758	129	(1)143	160	(1)326	61
%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
配偶者	9.9	24.0	11.9	10.0	3.4	9.8
子供	5.9	18.6	8.4	3.1	1.2	24.6
他の親族	8.8	14.7	10.5	9.4	5.5	13.1
内妻内夫	5.0	5.4	9.1	5.6	2.8	3.3
雇い主	0.9	-	1.4	0.6	1.2	-
友人知人	4.9	1.6	4.9	7.5	4.9	8.2
更生保護施設	48.9	27.9	40.6	49.4	60.7	24.6
その他	2.0	1.6	1.4	1.9	2.5	3.3
未定	13.6	6.2	11.9	12.5	17.8	13.1

注) 1 ( )内の数字は実数の欠損値で、外数である。

2 ( )がある場合のパーセントは欠損値を除く。

## (四) 引受人

表14は、身柄引受人について見たものである。男子全体では、「更生保護施設」が最も多く、約半数になっている。女子では「子供」と「更生保護施設」が同じ割合で24.6%ずつとなっている。男子について、入所度数別に見ると、入所度数が増すと、「更生保護施設」の割合が増し、「配偶者」、「子供」及び「他の親族」が減っている。

## (四) 引受状況

表15は、引受の可否について見たものである。「受入可」と「受入一応可」を合わせた割合は、男子全体では30.4%、女子は57.4%で女子の方が高い。

男子について、入所度数別に見ると、入所度数が増すと、「受入可」が減少し、その分「受入不可」が増加する傾向が顕著である。

## (カ) 就業状況

表16は、刑務所内での就業状況について見たものである。男子全体では、一般工場・経理営繕65.0%、養護工場30.5%で、不就業は4.5%、女子では、一般工場・経理営繕で81.0%、養護工場17.2%で、不就業は1.7%にとどまっている。

男子について、入所度数別に見ると、初入者に比べて多数回入所者で一般工場への出役が減り、経理営繕や養護工場での就業が増えている。

表15 受入状況別内訳

	男 子					女 子 全 体
	全 体	初入者	2~5入者	6~9入者	多数回入所者	
有効回答数 (人)	(3)757	129	(1)143	160	(2)325	61
%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
受入可	28.8	48.8	39.9	28.1	16.3	52.5
受入一応可	1.6	2.3	2.1	0.6	1.5	4.9
調整中	17.8	16.3	14.0	21.9	18.2	8.2
受入不可	36.2	21.7	32.2	35.0	44.3	16.4
その他	2.0	1.6	0.7	1.3	3.1	3.3
未定	13.6	9.3	11.2	13.1	16.6	14.8

注) 1 ( ) 内の数字は実数の欠損値で、外数である。

2 ( ) がある場合のパーセントは欠損値を除く。

表16 就業状況別内訳

	男 子					女 子 全 体
	全 体	初入者	2~5入者	6~9入者	多数回入所者	
有効回答数 (人)	(8)752	(3)126	(1)143	(1)159	(3)324	(3)58
%	100	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
一般工場	53.7	63.5	53.1	57.2	48.5	79.3
経理営繕	11.3	4.8	13.3	10.1	13.6	1.7
養護工場	30.5	23.8	29.4	28.9	34.3	17.2
不就業	4.5	7.9	4.2	3.8	3.7	1.7

注) 1 ( ) 内の数字は実数の欠損値で、外数である。

2 ( ) がある場合のパーセントは欠損値を除く。

㊦ 懲罰

表17は、懲罰について見たものである。男子全体では、懲罰なしが70.8%，女子では85.2%である。「5回以上」の者は、女子ではおらず、男子でも数%程度にとどまっている。

(4) 心身の状況

㊧ 身体状況

表18は、収容分類級P級（身体上の疾患又は障害のある者）の細分類の割合を見たものである。以下が分類基準である。

P X級：身体疾患のため相当期間の医療又は養護の必要のある者

P Y級：身体障害のため特別な処遇を必要

と認められる者

P Z級：年齢がおおむね60歳以上で老衰現象が相当程度認められる者及び身体虚弱のため特別な処遇を必要と認められる者

まず、どれにも該当しない「非該当」の者の割合を見ると、男子全体で26.6%，女子では19.7%で、かなりの者が何かしらの身体の疾患や障害を負っていることが分かる。最も多いのは、P X級、次にP Z級となっており、3つすべてのカテゴリーに当てはまる者も、男子全体で4.9%，初入者では8.5%いる。

表17 懲罰回数別内訳

	男 子					女 子 全 体
	全 体	初入者	2～5入者	6～9入者	多数回入所者	
有効回答数 (人)	(47)713	129	(6)138	(11)149	(30)297	61
%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
なし	70.8	82.2	60.9	68.5	71.7	85.2
1回	13.5	5.4	15.2	16.1	14.8	11.5
2～5回	12.2	9.3	18.1	12.1	10.8	3.3
5回以上	3.5	3.1	5.8	3.4	2.7	-

注) 1 ( ) 内の数字は実数の欠損値で、外数である。

2 ( ) がある場合のパーセントは欠損値を除く。

表18 身体状況別内訳

	男 子					女 子 全 体
	全 体	初入者	2～5入者	6～9入者	多数回入所者	
有効回答数 (人)	760	129	144	160	327	61
%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
P X	52.5	58.9	43.1	56.3	52.3	67.2
P Y	14.5	17.1	16.0	10.6	14.7	4.9
P Z	28.9	23.3	27.8	24.4	33.9	9.8
P X・P Y	7.4	10.1	7.6	5.6	7.0	-
P Y・P Z	5.8	8.5	5.6	3.1	6.1	-
P X・P Z	14.4	13.2	14.6	8.8	17.4	1.6
P X・P Y・P Z	4.9	8.5	4.9	2.5	4.6	-
非該当	26.6	24.0	36.1	23.8	24.8	19.7

注) P Xは身体疾患，P Yは身体障害，P Zは老衰虚弱をそれぞれ意味する。

## (イ) 精神障害

表19は、精神障害等について見たものである。「痴呆化」については、知能低下、ボケ症状等を基準にし、処遇担当者の判断によって回答を求めた。男女ともに「なし」がほとんどを占め、男子全体で87.3%、女子で95.0%であった。「痴呆化」の割合も、最も高い群（男子、2～5入者）でも5.6%とさほど高くない。

## (ウ) 休養措置等

表20は、調査ときに養護的処遇及び休養措置がとられている割合を見たものである。そうした特別な処遇中であつた者は、男子全体で31.5%、女子で11.5%であつた。全体では休養措置中の者は、数%であるが、男子初入者では10.1%と他に比べて多少高くなっている。

## (エ) 投薬状況

表21は、調査時の投薬の有無を見たものである。投薬を受けている者の割合は、男女とも60%程度となっている。

表19 精神障害別内訳

	男 子					女 子 全 体
	全 体	初入者	2～5入者	6～9入者	多数回入所者	
有効回答数 (人)	(2)758	129	144	160	(2)325	(1)60
%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
なし	87.3	90.7	84.0	86.9	87.7	95.0
知的障害	3.7	1.6	3.5	6.3	3.4	1.7
神経症	0.7	0.8	0.7	0.6	0.6	-
精神病質人格障害	2.5	0.8	3.5	1.3	3.4	-
精神病	3.3	5.4	2.8	3.8	2.5	1.7
痴ほう化	2.2	0.8	5.6	1.3	1.8	1.7
不明	0.3	-	-	-	0.6	-

注) 1 ( ) 内の数字は実数の欠損値で、外数である。

2 ( ) がある場合のパーセントは欠損値を除く。

表20 休養措置別内訳

	男 子					女 子 全 体
	全 体	初入者	2～5入者	6～9入者	多数回入所者	
有効回答数 (人)	760	129	144	160	327	61
%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
なし	68.6	69.0	70.1	71.3	66.4	88.5
養護的処遇中	27.4	20.9	25.7	26.3	31.2	8.2
休養措置中	4.1	10.1	4.2	2.5	2.4	3.3

表21 投薬別内訳

	男 子					女 子 全 体
	全 体	初入者	2～5入者	6～9入者	多数回入所者	
有効回答数 (人)	(3)757	(1)128	(1)143	160	(1)326	61
%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
なし	38.3	39.1	35.0	35.6	40.8	36.1
投薬中	61.7	60.9	65.0	64.4	59.2	63.9

注) 1 ( ) 内の数字は実数の欠損値で、外数である。

2 ( ) がある場合のパーセントは欠損値を除く。

(イ) 知能（IQ相当値）

表22は、矯正施設において実施したCAPAS (Correctional Association Psychological Assessment Series) の能力検査の結果（IQ相当値）について見たものである。

女子では半数以上の者が59以下であり、男子全体でも43.9%となっている。IQ相当値90以上の者は、女子にはおらず、男子でも数%であり、能力の低さが目立っている。

(ロ) 性格特性

法務省式人格目録（MJPI）を実施し結果が判明している者について、標準得点55以上の高得点域に入るもの（以下、高得点者という）の比率を示したものが、表23である。高得点者の割合が高い尺度は、男子全体では、「心気症」、「偏狭」であり、女子では、「虚構」、「偏向」、「心気症」、「自信欠如」、「偏狭」であり、総じて女子の高齢受刑者に性格

表22 知能IQ相当値別内訳

	男 子					女 子 全 体
	全 体	初 入 者	2～5入者	6～9入者	多数回入所者	
有効回答数（人）	(6)754	(1)128	144	(1)159	(4)323	61
%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
59以下	43.9	34.4	42.4	47.8	46.4	57.4
60～69	23.2	28.9	20.1	20.8	23.5	23.0
70～79	17.5	15.6	18.8	15.7	18.6	8.2
80～89	9.2	7.0	9.7	11.3	8.7	3.3
90～99	2.1	2.3	2.8	2.5	1.5	-
100～109	0.9	1.6	2.8	-	0.3	-
110～119	0.1	-	-	-	0.3	-
不明	3.1	10.2	3.5	1.9	0.6	8.2

注) 1 ( )内の数字は実数の欠損値で、外数である。  
 2 ( )がある場合のパーセントは欠損値を除く。

表23 MJPI各尺度高得点者の割合

	男 子					女 子 全 体
	全 体	初 入 者	2～5入者	6～9入者	多数回入所者	
有効回答数 (%)	(263)497 100	(22)107 100	(48)96 100	(62)98 100	(131)196 100	61 100
虚構	45.1	53.3	52.1	29.4	37.8	66.7
偏向	58.1	59.8	59.4	49	61.2	82.5
自我防衛	25.6	41.1	21.9	18.4	22.4	15.8
心気症	62.6	56.1	69.8	58.2	64.8	78.9
自信欠如	57.1	59.8	53.1	53.1	59.7	63.2
抑うつ	59.6	57.9	59.4	60.2	60.2	59.6
不安定	40.4	28	44.8	38.8	45.9	36.8
爆発	24.9	18.7	22.9	24.5	29.6	36.8
自己顕示	36	33.6	30.2	36.7	39.8	42.1
過活動	40.6	44.9	34.4	43.9	39.8	33.3
軽躁	38.8	52.3	39.6	37.8	31.6	45.6
従属	44.3	54.2	44.8	36.7	42.3	54.4
偏狭	66.4	54.2	69.8	66.3	71.4	78.9

注) 1 ( )内の数字は実数の欠損値で、外数である。  
 2 ( )がある場合のパーセントは欠損値を除く。

の偏りが大きいことがうかがえる。また、男子において、入所度数別に傾向を見ると、初入者は多数回入所者に比べて「虚構」や「自我防衛」といった尺度で高率を示し、「偏狭」の尺度で低い率となっていた。

## 2 意識調査結果

### (1) 刑務所内での生活

刑務所内での適応感、不満について、13項目を問い、そこで「そのとおり」及び「まあそのとおり」と回答した者の割合を示したものが、表24である。最初の5項目は、片倉ら(1998)が外国人受刑者を対象に、続いて廣橋ら(1999)が若年受刑者を対象に調査を行ったものである。その他8項目については、高齢受刑者にありがちな悩みや不安を反映するであろう項目を今回導入したものである。以下、各項目についての結果を示す。

「1 最近、私は、体の調子が良い」について、肯定した者の割合(「そのとおり」と「まあそのとおり」の比率を合わせたもの)は、男子全体で55.6%、女子で57.6%であった。男子について、入所度数別に見ると、初入者64.5%、2~5入者57.6%、6~9入者50.3%、多数回入所者53.8%であり、初入者が他よりもやや高めになっている。

「2 私は職員とよく話す」については、肯定した者の割合は、男子全体で28.5%、女子で24.6%と、かなり低い値にとどまっている。男子について、入所度数別に見ると、初入者33.9%、2~5入者26.2%、6~9入者24.5%、多数回入所者29.3%で、初入者で他よりも高くなっている。

「3 職員は私のことをとてもよく理解している」については、男子全体で54.9%、女子で47.3%が肯定している。男子について、入所度数別に見ると、初入者64.2%、2~5入者61.5%、6~9入者、54.9%、多数回入所者48.1%と、入所度数が高くなると、肯定する割合が減っている。

「4 刑務所内の規律は厳しいと思う」に

ついて、男子全体の74.1%、女子の66.7%が肯定している。入所度数別では、初入者67.5%、2~5入者68.2%、6~9入者74.0%、多数回入所者79.5%と、入所度数が上がると、肯定する割合が増えている。

「5 受刑者との仲は良い」については、男子全体で67.0%、女子で62.1%が肯定している。男子について入所度数別に見ると、初入者72.5%、2~5入者65.2%、6~9入者71.7%、多数回入所者63.2%であり、多数回入所者で他よりも低い数値になっている。

「6 刑務所での経験が自分に役立っていると思う」について肯定する者の割合は、男子全体で47.3%、女子で80.7%と、男女差が大きい。男子について入所度数別に見ると、初入者70.8%、2~5入者49.2%、6~9入者41.2%、多数回入所者40.0%と、初入者とその他の群での差が大きい。

「7 刑務所にいる方が社会にいるよりも楽だと思う」については、男子全体で7.1%、女子で6.9%しか肯定していない。男子について、入所度数別に見ても目立った差がなく、いずれも低率である。

「8 刑務所での生活で悪いことを覚えると思う」を肯定した者は、男子全体で29.7%、女子で24.1%であった。男子について入所度数別に見ると、初入者が12.6%なのに対し、2~5入者32.3%、6~9入者28.9%、多数回入所者35.9%と、初入者とその他の群の間に大きな差がある。

「9 若い受刑者の行動についていけない」については、男子全体の54.9%、女子の64.9%が肯定している。男女差では、女子が男子よりもやや多くなっている。男子について入所度数別に見ると、どの群も50%台であり、大きな差は見られない。

「10 食事があわない」について肯定する者は、男子全体で30.5%、女子で23.2%であった。男子について入所度数別に見ると、初入者22.5%、2~5入者28.6%、6~9入者

34.0%，多数回入所者32.8%で，初入者が他に比べてやや低くなっている。

「11 十分な医療が受けられない」については，男子全体で40.5%，女子で34.5%であり，男子の方が女子よりも肯定する割合が多くなってきている。男子について入所度数別に見ると，初入者42.9%，2～5入者39.7%，6～9入者36.1%，多数回入所者42.0%であり，特に目立った差はない。

「12 さびしい」について，肯定する者の

割合は，男子全体で54.7%，女子で57.9%であった。男子について入所度数別に見ると，初入者55.1%，2～5入者46.8%，6～9入者60.1%，多数回入所者55.3%であった。

「13 体力的に作業がづらい」について肯定しているのは，男子全体で21.7%，女子で19.0%にとどまっている。男子について入所度数別に見ると，6～9入者，多数回入所者は25%以上となっているが，初入者，2～5入者では15%程度である。

表24 所内生活について

質問項目	男 子									女 子		
	欠損値	全 体	欠損値	初入者	欠損値	2～5入者	欠損値	6～9入者	欠損値	多数回入所者	欠損値	全 体
有効回答数 (人)		760		129		144		160		327		61
%		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0
1 最近、私は体の調子が良い。	64	55.6	8	64.5	12	57.6	9	50.3	35	53.8	2	57.6
2 私は職員とよく話す。	75	28.5	8	33.9	14	26.2	13	24.5	40	29.3	4	24.6
3 職員は私のことをとてもよく理解している。	77	54.9	9	64.2	14	61.5	18	54.9	36	48.1	6	47.3
4 刑務所内の規律は厳しいと思う。	68	74.1	9	67.5	15	68.2	14	74.0	30	79.5	4	66.7
5 受刑者との仲が良い。	67	67.0	9	72.5	12	65.2	15	71.7	31	63.2	3	62.1
6 刑務所での経験が自分に役立っていると思う。	69	47.3	9	70.8	16	49.2	12	41.2	32	40.0	4	80.7
7 刑務所にいる方が社会にいるより楽だと思う。	68	7.1	10	8.4	18	4.0	13	8.2	27	7.3	3	6.9
8 刑務所の生活で悪いことを覚えると思う。	64	29.7	10	12.6	14	32.3	11	28.9	29	35.9	3	24.1
9 若い受刑者の行動について行けない。	66	54.9	11	50.0	14	53.8	11	51.7	30	58.9	4	64.9
10 食事が合わない。	71	30.5	9	22.5	18	28.6	13	34.0	31	32.8	5	23.2
11 十分な医療が受けられない。	68	40.5	10	42.9	13	39.7	13	36.1	32	42.0	3	34.5
12 さびしい。	73	54.7	11	55.1	18	46.8	12	60.1	32	55.3	4	57.9
13 体力的に作業がづらい。	64	21.7	9	15.8	14	14.6	12	25.0	29	25.5	3	19.0

注) パーセントは有効回答数に対する「あてはまる」、「ややあてはまる」の合計である。

(2) 出所後の悩み・心配ごと

出所後の悩み7項目について，該当すると回答した割合を見たものが，表25である。

「1 お金がないこと」について，「あてはまる」と回答した者の割合は，男子全体で56.1%，女子で34.4%であり，女子の方が男子よりも低い。男子について入所度数別に見ると，初入者28.7%，2～5入者47.4%，6～9入者62.7%，多数回入所者67.3%と入所度数が高くなるにつれて目立って高率になっている。

「2 仕事がないこと」については，男子全体で55.7%，女子で50.8%が悩みとしてあ

げている。男子については入所度数別に見ると，初入者では36.9%，2～5入者45.9%，6～9入者58.8%，多数回入所者65.7%と，入所度数が上がるにつれて高くなってきている。

「3 健康が優れないこと」が悩みであると回答した者の割合は，男子全体で41.7%，女子で42.6%である。男子について入所度数別に見ると，初入者及び2～5入者では30%であるのに対し，6～9入者及び多数回入所者では45%を超えている。

「4 家族との関係がうまくいかないこと」について，「あてはまる」と回答した者は，男子全体では22.2%，女子で16.4%であ

表25 悩み・心配事について（肯定的な回答の割合）

	男 子								女子 全体		
	欠損値	全体	欠損値	初入者	欠損値	2~5入者	欠損値	6~9入者		欠損値	多数 回入
有効回答数（人）		760		129		144		160		327	61
%		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0	100.0
1 お金がないこと	40	56.1	7	28.7	11	47.4	7	62.7	15	67.3	34.4
2 仕事が少ないこと	40	55.7	7	36.9	11	45.9	7	58.8	15	65.7	50.8
3 健康が優れないこと	40	41.7	7	34.4	11	32.3	7	45.8	15	46.5	42.6
4 家族との関係がうまくいかないこと	40	22.2	7	18.9	11	22.6	7	20.9	15	24.0	16.4
5 生きがいがないこと	40	19.2	7	14.8	11	14.3	7	20.3	15	22.4	14.8
6 頼れる人がいないこと	40	36.8	7	23.8	11	27.8	7	32.0	15	48.1	19.7
7 周囲から必要とされないこと	40	22.6	7	17.2	11	14.3	7	21.6	15	28.8	11.5
8 その他	40	13.2	7	20.5	11	18.0	7	11.8	15	9.0	23.0

注) 1 パーセントは有効回答数に対する「あてはまる」、「ややあてはまる」の合計である。

2 この項目は複数回答である。

り、両者とも比較的低い割合となっている。男子については、最も高い多数回入所者で24.0%止まりである。

「5 生きがいがないこと」を出所後の悩みとして挙げた者は、男子全体で19.2%、女子で14.8%で、低い割合に留まっている。生活を維持することに直接関わらない事項であり、選択されることが少ないものと言える。

「6 頼れる人がいないこと」を選択した者の割合は、男子全体で36.8%、女子で19.7%と、男女差が見られる。また、男子について入所度数別では、入所度数が高くなるにつれて、目立って選択される割合が増え、多数回入所者では48.1%となっている。

「7 周囲から必要とされないこと」を心配事として挙げた者の割合は、男子全体で22.6%、女子は11.5%で、女子では特に低い割合である。男子については、入所度数別では、多数回入所者が最も多いが、28.8%程度である。

### (3) 今一番大切なもの

表26は、9個の選択肢のうちで、今一番大切なものは何かについて1つ選択させた結果である。上位3位は、男子全体で、健康43.7%、家族・子ども32.9%、仕事9.9%の順になっている。女子では、家族・子ども48.3%、健康34.5%、仕事6.9%であった。男子について入所度数別に見ると、初入者及び2~5入者で

表26 今一番大切なもの

	男 子					女子 全体
	全 体	初入者	2~5入者	6~9入者	多数回入所者	
有効回答数（人）	(194)566	(19)110	(33)111	(49)111	(103)224	(3)58
%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 家族・子ども	32.9	49.1	44.1	27.0	22.3	48.3
2 宗教・信仰	1.1	0.9	2.7	-	0.9	-
3 仲間・友達	1.8	3.6	0.9	0.9	1.8	-
4 人づきあい	4.5	3.6	3.6	1.8	6.7	5.2
5 国家	0.5	0.9	-	0.9	0.4	-
6 財産・お金	4.7	0.9	1.8	7.2	6.7	3.4
7 仕事	9.9	8.2	9.9	10.8	10.3	6.9
8 健康	43.7	31.8	36.9	50.5	49.6	34.5
9 その他	0.9	0.9	-	0.9	1.3	1.7

注) 1 ( )内の数字は実数の欠損値で、外数である。

2 ( )がある場合のパーセントは欠損値を除く。



は、家族・子どもが最も多く選ばれ、次に健康と続いている。それに対し、6～9入者及び多数回入所者では、健康が最も多く選ばれ、家族・子どもは20%台にとどまっている。お金に関しては、最も割合の高かった男子6～9入者でも7.2%であった。

(4) 生活費のあて

表27は、出所して社会へもどったときの生活費のあてがあるかいなかを問うた結果である。男子全体では、「ある」と回答した者が42.5%、「ない」が57.5%で、「ない」が「あ

る」を上回っている。一方、女子では、「ある」が60.0%、「ない」が40.0%であり、男子よりも、経済的な見通しが明るいことがうかがえる。男子について、入所度数別に見ると、見通しが「ある」と回答した者の割合は、初入者67.5%、2～5入者46.6%、6～9入者47.3%、多数回入所者28.3%と、初入者は他よりも最も高く、2～5入者、6～9入者は半数弱、多数回入所者は3割に満たない。いずれにしろ、厳しい状況が示されている。

表27 出所後のあて・生活費のあて

	男 子					女 子 全 体
	全 体	初入者	2～5入者	6～9入者	多数回入所者	
有効回答数 (人)	(66)694	(9)120	(13)131	(14)146	(30)297	(1)60
%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
ある	42.5	67.5	46.6	47.3	28.3	60.0
ない	57.5	32.5	53.4	52.7	71.7	40.0

注) 1 ( ) 内の数字は実数の欠損値で、外数である。  
2 ( ) がある場合のパーセントは欠損値を除く。

(5) 犯罪の理由

刑務所に入るようになった理由を17項目挙げ、その中で当てはまると回答された割合を示したものが、表28である。項目は法務総合研究所の研究から引用したが、実務経験から「16 異性関係に失敗した」の1項目を今回新たに加えた。

男子全体では、犯罪の理由として最も多く選ばれた項目は、「金遣いが荒かった、生活が派手だった」43.6%であった。それに続いて「仕事がなかった」36.1%、「生活が苦しかった」31.5%、「見栄っ張りだった」30.7%、「怠け癖や遊び癖がついていた」26.3%、「酒をやめられなかった」26.0%となっている。女子については、「見栄っ張りだった」50.8%が最も多く選択され、「金遣いが荒かった、生活が派手だった」36.1%、「生活が苦しかった」26.2%、「仕事がなかった」26.2%と続いている。男子について入所度数別に見る

と、初入者では「人にだまされた」が最も多く33.6%、次に「金遣いが荒かった、生活が派手だった」25.4%、「酒をやめられなかった」19.7%となっている。2～5入者では「金遣いが荒かった、生活が派手だった」36.1%、「見栄っ張りだった」27.8%、「悪い人と付き合った」25.6%、「仕事がなかった」25.6%の順であった。6～9入者では、「金遣いが荒かった、生活が派手だった」が半数近く(48.4%)になり、「仕事がなかった」40.5%、「見栄っ張りだった」37.9%、「生活が苦しかった」33.3%、「怠け癖や遊び癖がついていた」28.8%、「悪い人と付き合った」25.5%の順になっている。多数回入所者については、「金遣いが荒かった、生活が派手だった」を51.6%の者が選択しており、その外、「仕事がなかった」47.1%、「生活が苦しかった」41.0%、「怠け癖や遊び癖がついていた」37.2%、「見栄っ張りだった」35.3%、「手

表28 犯罪理由について

質問項目	男 子							女 子				
	欠損値	全体	欠損値	初入者	欠損値	2~5入者	欠損値	6~9入者	欠損値	多数回入所者	欠損値	全体
有効回答数 (人)		760		129		144		160		327		61
%		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0
① 金遣いが荒かった, 生活が派手だった	40	43.6	7	25.4	11	36.1	7	48.4	15	51.6	-	36.1
② 悪い人と付き合い合った	40	21.0	7	18.0	11	25.6	7	25.5	15	17.9	-	19.7
③ 生活が苦しかった	40	31.5	7	13.9	11	23.3	7	33.3	15	41.0	-	26.2
④ 酒をやめられなかった	40	26.0	7	19.7	11	24.8	7	19.6	15	32.1	-	8.2
⑤ 怠け癖や遊び癖がついていた	40	26.3	7	6.6	11	15.8	7	28.8	15	37.2	-	6.6
⑥ 見えっ張りだった	40	30.7	7	13.1	11	27.8	7	37.9	15	35.3	-	50.8
⑦ 人にだまされた	40	23.3	7	33.6	11	24.1	7	21.6	15	19.9	-	16.4
⑧ 手に職がなかった	40	22.1	7	3.3	11	10.5	7	24.8	15	33.0	-	21.3
⑨ 仕事がなかった	40	36.1	7	13.9	11	25.6	7	40.5	15	47.1	-	26.2
⑩ やけをおこした	40	19.9	7	10.7	11	20.3	7	18.3	15	24.0	-	18.0
⑪ 親や家族が悪かった	40	3.3	7	3.3	11	3.0	7	3.3	15	3.5	-	4.9
⑫ 妻や家族に見捨てられた	40	11.8	7	6.6	11	9.0	7	17.0	15	12.5	-	3.3
⑬ 近所の環境が悪かった	40	6.9	7	4.1	11	3.8	7	9.8	15	8.0	-	3.3
⑭ 覚せい剤を打ち始めた	40	9.4	7	1.6	11	12.8	7	16.3	15	7.7	-	4.9
⑮ やくざになった	40	3.8	7	0.8	11	5.3	7	5.2	15	3.5	-	-
⑯ 異性関係に失敗した	40	9.3	7	9.8	11	11.3	7	8.5	15	8.7	-	13.1
⑰ その他 ( )	40	8.8	7	15.6	11	9.0	7	6.5	15	7.1	-	4.9

注) 1 パーセントは有効回答数に対する「あてはまる」、「ややあてはまる」の合計である。

2 この項目は複数回答である。

表29 出所後の生活について

質問項目	男 子							女 子				
	欠損値	全体	欠損値	初入者	欠損値	2~5入者	欠損値	6~9入者	欠損値	多数回入所者	欠損値	全体
有効回答数 (人)		760		129		144		160		327		61
%		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0
1 これから社会に戻って, 悪いことをしないで生活できると思う。	71	90.7	10	100.0	11	91.7	14	91.8	36	85.9	1	98.3
2 これから社会に戻ると, 今よりも生活が悪くなる心配がある。	89	35.0	17	19.6	16	29.7	18	31.0	38	45.3	2	35.6
3 社会に戻ったとき, 自分を助けてくれる人がいる。	95	58.6	14	65.9	16	70.3	22	65.2	43	44.0	3	74.1
4 社会に戻ったら, 周りの人から冷たい目で見られたりすると思う。	95	49.6	12	54.7	19	42.4	22	44.2	42	53.3	3	34.5
5 自分ばかりが辛い目にあうように感じる。	108	21.0	14	17.4	21	19.5	24	17.6	49	24.8	2	10.2
6 人のためになることがしたいと思う。	97	87.3	12	95.7	18	92.9	21	86.3	46	81.9	3	91.4
7 自分は役に立たない人間だと思うことがよくある。	93	47.2	15	24.6	15	38.0	22	39.1	41	64.3	2	47.5
8 社会で自分を待っている人がいる。	94	58.0	13	77.6	20	69.4	19	66.0	42	41.1	2	78.0
9 社会と一緒に暮らしたい人がいる。	101	56.4	14	67.0	18	68.3	21	61.9	48	44.1	4	68.4
10 出所するのを楽しみにしている。	76	96.2	9	97.5	13	94.7	17	98.6	37	95.2	1	93.3
11 今の刑務所での生活をがんばって, なるべく早く出所したいと思う。	70	95.1	11	98.3	12	93.9	15	97.9	32	92.2	1	98.3

注) パーセントは有効回答数に対する「あてはまる」、「ややあてはまる」の合計である。

に職がなかった」33.0%と続いている。「親や家族が悪かった」、「近所の環境が悪かった」及び「やくざになった」の3項目については, どの群においても10%に満たなかった。

#### (6) 出所後の見通し等

表29は, 出所後の生活や対人関係などにかかわる質問の回答分布をみたものである。項目ごとに見ていくと, 「1 これから社会に

戻って、悪いことをしないで生活できると思う」の肯定回答率は総じて高いが、男子全体で90.7%、女で98.3%と、男子よりも女子が高くなっている。男子について、入所度数別に見ると、初入者では100%、2～5入者、6～9入者で91%程度だが、多数回入所者で85.9%と下がっている。

「2 これから社会に戻ると、今よりも生活が悪くなる心配がある」について肯定した者は、男子全体では35.0%、女子では35.6%である。男子について、入所度数別に大きな違いがあり、初入者19.6%なのに対し、2～5入者29.7%、6～9入者31.0%、多数回入所者45.3%と、入所度数が増えるに従って高率になっている。

「3 社会に戻ったとき、自分を助けてくれる人がいる」について肯定した者は、女子では74.1%であるが、男子全体では58.6%で、女子が男子よりも高い。男子について、入所度数別に見ると、最も高い値を示したのは2～5入者70.3%であり、最も低い値を示したのが多数回入所者44.0%であった。

「4 社会に戻ったら、周りの人から冷たい目で見られたりすると思う」に肯定した者は、女子で34.5%、男子全体で49.6%である。入所度数別では、初入者と多数回入所者が54.7%、53.3%であるのに対し、2～5入者、6～9入者が42.4%、44.2%と多少低くなっている。

「5 自分ばかりが辛い目にあうように感じる」についての肯定回答率は、女子で10.2%、男子全体で21.0%である。男子について入所度数によって目立った差はない。

「6 人のためになることがしたいと思う」での肯定回答の割合は、総じて高い。最も低い群の男子多数回入所者でも81.9%を示している。

「7 自分は役に立たない人間だと思えることがよくある」について肯定した者は、女子で47.5%、男子全体で47.2%である。男子について、入所度数別に見ると、入所度数が増えるにしたがって、肯定回答率が目立って増えている。

「8 社会で自分を待っている人がいる」については、女子では78.0%が肯定しているのに、男子全体では58.0%にとどまっている。特に入所度数が高くなればなるほどその割合が減り、初入者では77.6%であるのに対し、多数回入所者では41.1%まで落ち込んでいる。

「9 社会と一緒に暮らしたい人がいる」に肯定した者は、女子で68.4%、男子全体で56.4%である。男子について、入所度数別に見ると、多数回入所者が44.1%で、他の3群がすべて60%を超えているのと大きな差がある。

「10 出所するのを楽しみにしている」には、どの群も93%を超えて高い肯定率を示している。

「11 今の刑務所での生活をがんばってなるべく早く出所したいと思う」についても、すべての群で90%を超えて肯定している。

(7) 住民票・年金の知識

表30は、自分の住民票がどこの役所に登録されているかを知っていると答えた者の割合と、年金の仕組みや資格について知っていることと答えた者の割合を示したものである。

住民票については、女子で88.1%、男子全

表30 住民票・年金について

質問項目	男 子							女 子				
	欠損値	全体	欠損値	初入者	欠損値	2～5入者	欠損値	6～9入者	欠損値	多数回入所者	欠損値	全体
有効回答数 (人)		760		129		144		160		327		61
%		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0
1 住民票の登録場所を知っている	59	85.4	9	88.3	13	84.0	13	95.2	24	80.2	2	88.1
2 年金・資格について知っている	61	62.8	9	76.7	13	66.4	13	70.7	26	51.8	1	68.3

体で85.4%が知っている」と回答した。最も低い群は男子多数回入所者で80.2%であった。

年金についての知識については、女子の68.3%、男子全体の62.8%が知っている」と回答した。男子について、入所度数別に見ると、多数回入所者51.8%で他の3群よりも目立って低い。

### (8) 犯罪行為への合理化

犯罪行為について、いろいろな理由付けをして自分の責任を軽減しようとする傾向（中和化）があることが指摘されている（マツア：上芝ら訳1986）。表31は、さまざまな犯罪場面でいろいろな言い訳に同意する者の割合を示したものである。項目ごとに結果を概観する。

「1 犯罪の動機にはやむをえない事情がある」として肯定した者は、男子全体で60.0%、女子で69.0%で、男女差が多少ある。男子について入所度数別に見ると、初入者64.2%が最も高く、6～9入者が最低で55.1%となっている。

「2 交通違反や、ちょっとした犯罪は偶然に起こす場合が多いと思う」と肯定した者は、男子全体で61.1%、女子で50.0%で、男

子が女子よりも高率である。男子について入所度数別に見ると、多数回入所者64.4%が最も多く、初入者54.5%が最も低い率である。

「3 薬物の使用など、他人に直接迷惑のかからない犯罪をそれほど厳しく取り締まる必要はないと思う」として肯定したのは、男子全体で22.8%、女子で22.4%であった。男子について入所度数別に見ると、初入者が13.2%で最も低い、多数回入所者でも24.2%にとどまっている。

「4 窃盗未遂など、結局だれも実際の被害にあわなかったのなら、大きく騒ぐこともないと思う」として、男子全体では34.1%、女子で27.6%が肯定的であった。男子について入所度数別に見ると、初入者21.2%、2～5入者、6～9入者それぞれともに31.3%、多数回入所者41.9%と差が目立っている。

「5 スリの被害者になる人は、注意深さが足りない」として、肯定する者の割合は男子全体で62.4%、女子で70.2%と両者ともに比較的高い。男子について入所度数別に見ると、最も低い群は6～9入者52.8%、最も高い群で多数回入所者66.8%となっている。

表31 犯罪行為の合理化について

質問項目（略記）	男 子									女 子		
	欠損値	全体	欠損値	初入者	欠損値	2～5入者	欠損値	6～9入者	欠損値	多数回入所者	欠損値	全体
有効回答数（人）		760		129		144		160		327		61
%		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0
1 犯罪の動機にはやむをえない事情がある	68	60.0	9	64.2	13	57.3	13	55.1	33	61.9	3	69.0
2 ちょっとした犯罪は偶然起こす場合が多い	79	61.1	8	54.5	16	64.1	17	57.3	38	64.4	3	50.0
3 犯罪を厳しく取り締まらなくても良い	81	22.8	8	13.2	12	20.5	16	22.9	-	24.2	3	22.4
4 窃盗未遂など大きく騒ぐ必要はない	76	34.1	11	21.2	13	31.3	16	31.3	36	41.9	3	27.6
5 スリの被害者になる人は注意深さが足りない	84	62.4	10	62.2	14	63.8	16	52.8	44	66.8	4	70.2
6 暴力事件の被害者は相手を怒らせている	79	50.2	9	53.3	13	51.9	18	48.6	39	49.0	5	58.9
7 取り締まりや捜査は公平でない	72	68.5	8	57.9	15	67.4	16	69.4	33	72.8	4	63.2
8 法律がいつも正しいとは言えない	85	63.1	9	59.2	15	55.8	19	59.6	42	69.8	4	52.6
9 法律を破らなくてはならないこともある	78	50.0	8	35.5	13	43.5	16	51.4	41	58.4	3	48.3
10 仕事のためスピード違反をすることは仕方ない	77	21.2	8	11.6	14	20.8	17	19.6	38	26.3	5	17.9

注) 1 パーセントは有効回答数に対する「あてはまる」、「ややあてはまる」の合計である。

2 質問項目の内容については論文末の資料、CARIC調査の質問10を参照。

「6 暴力事件の被害者になるような人は、相手を怒らせるようなことをしているのだと思う」を肯定した者の割合は、男子全体で50.2%、女子で58.9%で、女子が男子よりも高率である。男子について入所度数別に見ると、4群間で目立った差はなく半数程度である。

「7 犯罪の取り締まりや捜査に当たって、すべての人が公平に扱われているとは思えない」について肯定したのは、男子全体で68.5%、女子63.2%で全体に高率であった。男子について入所度数別に見ると、入所度数が上がるに選ばれる率も高くなっており、入所回数が多い者に不公平感が強いことが示されている。

「8 法律がいつも正しいとは言えない」については、男子全体の63.1%、女子の52.6%が肯定し、男子が女子を上回っている。男子について入所回数別に見ると、2～5入55.8%、初入者59.2%、6～9入者59.6%、多数回入所者69.8%と高くなっており、多数回入所者が他よりも目立って高い割合を示している。

「9 自分の大切な人たちのために、法律を破らなくてはならないこともあると思う」について肯定した者の割合は、男子全体で50.0%、女子で48.3%であった。男子について入所度数別に見ると、入所度数が上がるについて、肯定の割合が目立って高くなっている。

「10 仕事に遅れないようにと、スピード違反をすることは仕方ないと思う」を肯定する者の割合は、男子全体で21.2%、女子17.9%であり、ともに低い値である。男子について入所度数別に見ると、最も低い群の初入者では11.6%であるのに対し、最も高い多数回入所者では26.3%と、群間に差が見られる。

#### IV おわりに

以上、本稿では、職員の記述による属性や犯罪の特徴及び刑務所内適応等について、また、受刑者自身による受刑や更生への意識等について、男女別に、そして男子については入所度数別に概観した。文中に表を多用したのは、基礎資料を提供することと、昭和62年に行われた法務総合研究所の調査項目との比較を考え、約10年でどのように変化したのかを追うことができるようにすることを意図している。次の報告においては、罪種別の検討や受刑者の意識についてのより深い分析を行うとともに、施設に対して行った調査の回答を検討することにしたい。

#### 参考文献

- 廣橋秀山・松村猛・水上好介・中勢直之・瀧上康幸・門本泉 1999 若年受刑者の特性に関する研究（その1）中央研究所紀要第9号 21-46
- 法務総合研究所 1991 犯罪白書平成3年度版
- 市川守 1989 高齡受刑者の実態 刑政第100巻 3号 34-40
- 片倉庸介・長谷川宜志・瀧上康幸・松村猛・水上好介・中勢直之・門本泉 1998 外国人受刑者の受刑態度に関する研究（その1）中央研究所紀要第8号 11-40
- 野坂陽一・大槻隆司・柏木史雄・市川守・橋迫重夫 1988 高齡受刑者の実態に関する研究 法務総合研究所研究部紀要31 49-84
- 立川晃司 1993 「被收容者の更生に関する意識」調査—高齡受刑者（60歳以上）の更生に関する意識—矯正職務研究35号 2-26
- Matza, D. 非行理論研究会（訳）1986 漂流する少年—現代の少年非行論— 成文堂

(参考資料)

整理番号

# C A R I C ちょうさ 調査

これは、みなさんが白ごろ生活の中で、どのように感じたり、考えたりしているかについての調査です。次のページから質問がありますが、人それぞれ、みんな考え方は違うので、どの答えが正しいとか、間違っているということはありません。また、この結果は、全員の方をまとめて取り扱いますので、名前を書く必要はありません。みなさんの行刑成績とも関係がありませんから、思ったまま、感じたままを答えてください。

## こた かた 答え方

質問では、あてはまる答えを選んで○印をつけたり、自分の考えに近い番号に○印をつけていきます。下に例をあげます。

例1) あなたの考えに一番近いものを選んでください。

- ア  犬が好きだ。
- イ  猫が好きだ。
- ウ  犬も猫も嫌いだ。

「犬が好きだ。」があなたの考えに一番近いときは、ここに○をつけます。

例2) あなたの意見に一番近いものを選んでください。

- |       |   |   |   |   |
|-------|---|---|---|---|
| MSUBO | ま | よ | ち |   |
|       | あ | ち | が |   |
|       | の | や | が |   |
|       | と | ち | う |   |
|       | お | う |   |   |
|       | り |   |   |   |
|       | 4 | 3 | 2 | 1 |

「そのとおり」が一番あなたの考えに近いときは、ここに○をつけます。

質問1 あなたの性別は？。どちらかの番号に○をつけてください。

- 1 男                      2 女

質問2 あなたの年齢は何歳ですか。満年齢で数字を記入してください。

(                      歳 )

質問3 次に書いてあることは、今のあなたにどれくらいあてはまりますか？

右の回答欄の「そのとおり」から「ちがう」までの5つの中から、あなたの考えや感じ方に合っているものを選んで、右側の回答欄の1から5の番号のうちひとつに○印をつけてください。

	そのとおり	まあそのとおり	どちらともいえない	ちがう	ちがう
1 最近、私は体の調子が良い	5	4	3	2	1
2 私は職員とよく話す	5	4	3	2	1
3 職員は私のことをとてもよく理解している	5	4	3	2	1
4 刑務所内の規律は厳しいと思う	5	4	3	2	1
5 受刑者との仲は良い	5	4	3	2	1
6 刑務所での経験が自分に役立っていると思う	5	4	3	2	1
7 刑務所にいる方が社会にいるよりも楽だと思う	5	4	3	2	1
8 刑務所の生活で悪いことを覚えると思う	5	4	3	2	1
9 若い受刑者の行動についていけない	5	4	3	2	1
10 食事が合わない	5	4	3	2	1
11 十分な医療が受けられない	5	4	3	2	1
12 さびしい	5	4	3	2	1
13 体力的に作業がづらい	5	4	3	2	1

\*\*\*\* 次のページに進んでください \*\*\*\*

質問4 出所後に関する悩み・心配事について聞きます。次の中で気にかかることすべての番号に○をつけてください。あてはまるものが①から⑦にない場合は、⑧「その他」を選んで、かっこの中に書いてください。

- ① お金がないこと
- ② 仕事がないこと
- ③ 健康が優れないこと
- ④ 家族との関係がうまくいかないこと
- ⑤ 生きがいがないこと
- ⑥ 頼れる人がいないこと
- ⑦ 周囲から必要とされないこと
- ⑧ その他 ( )

質問5 次の中で今一番大切な物は何ですか。次のうちから1つ選んで、番号に○をつけてください。あてはまるものが①から⑧にない場合は、⑨「その他」を選んで、かっこの中に書いてください。

- ① 家族・子ども
- ② 宗教・信仰
- ③ 仲間・友達
- ④ 人づきあい
- ⑤ 国家
- ⑥ 財産・お金
- ⑦ 仕事
- ⑧ 健康
- ⑨ その他 ( )

\*\*\*\* 次のページに進んでください \*\*\*\*



質問6 あなたが<sup>しゅちん</sup>出所<sup>しゅっしょ</sup>して社会<sup>しゃかい</sup>へもどったとき、あなたには、生活<sup>せいかつ</sup>していくお金の<sup>かね</sup>あてがありますか、それともありませんか。どちらかを選んで<sup>えら</sup>番号<sup>ばんごう</sup>に○をつけてください。

- ① ある
- ② ない

質問7 あなたが<sup>しゅちん</sup>今回<sup>こんかい</sup>、刑務所<sup>けいむしょ</sup>に入る<sup>はい</sup>ようになったわけは、あなたが<sup>かねが</sup>考えてみて、次のうち<sup>つぎ</sup>のどれに<sup>あ</sup>当てはまりますか。あてはまるもの<sup>ばんごう</sup>すべての番号<sup>ばんごう</sup>に○をつけてください。あてはまるものが①から⑩にない場合は、⑪「その他」<sup>た</sup>を選んで、かっこの<sup>なか</sup>中に<sup>か</sup>書いてください。

- ① 金遣い<sup>かねづか</sup>が荒<sup>あ</sup>かった、生活<sup>せいかつ</sup>が派手<sup>はで</sup>だった
- ② 悪い<sup>わる</sup>人と付き合<sup>つきあ</sup>った
- ③ 生活<sup>せいかつ</sup>が苦<sup>くる</sup>しかった
- ④ 酒<sup>さけ</sup>をやめられなかつた
- ⑤ 怠<sup>なま</sup>け癖<sup>くせ</sup>や遊<sup>あそ</sup>び癖<sup>くせ</sup>がついていた
- ⑥ 見<sup>み</sup>えっ張<sup>はり</sup>りだった
- ⑦ 人<sup>ひと</sup>にだまされた
- ⑧ 手<sup>て</sup>に職<sup>しよく</sup>がなかつた
- ⑨ 仕事<sup>しごと</sup>がなかつた
- ⑩ やけをおこした
- ⑪ 親<sup>おや</sup>や家族<sup>かぞく</sup>が悪<sup>わる</sup>かった
- ⑫ 妻<sup>さいし</sup>子<sup>こ</sup>や家族<sup>かぞく</sup>に見捨<sup>みす</sup>てられた
- ⑬ 近所<sup>きんじよ</sup>の環<sup>かんきやう</sup>境<sup>きやう</sup>が悪<sup>わる</sup>かった
- ⑭ 覚<sup>かく</sup>せい剤<sup>ざい</sup>を打<sup>う</sup>ち始<sup>はじ</sup>めた
- ⑮ やくざになつた
- ⑯ 異<sup>いせい</sup>性<sup>かんがい</sup>関<sup>かんがい</sup>係<sup>けい</sup>に失<sup>しつぱい</sup>敗<sup>ぱい</sup>した
- ⑰ その他<sup>た</sup>（ )

\*\*\* 次のページに進<sup>すす</sup>んでください\*\*\*

質問8 次のことについて、あなたはどのように思いますか。右の回答欄の「そのとおり」から「ちがう」までの4つの中から、あなたの考えや感じ方に合っているものを選んで、右側の回答欄の1から4の番号のうち1つに○印をつけてください。

		回答欄			
		そのとおり	まあそのとおり	ちがう	ちがう
1	これから社会にもどって、悪いことをしないで生活できると思う	4	3	2	1
2	これから社会にもどると、今よりも生活が悪くなる心配がある	4	3	2	1
3	社会に戻ったとき、自分を助けてくれる人がいる	4	3	2	1
4	社会に戻ったら、周りの人から冷たい目で見られたりすると思う	4	3	2	1
5	自分ばかりが辛い目にあうように感じる	4	3	2	1
6	人のためになることがしたいと思う	4	3	2	1
7	自分は役に立たない人間だと思うことがよくある	4	3	2	1
8	社会で自分を待っている人がいる	4	3	2	1
9	社会で一緒に暮らしたい人がいる	4	3	2	1
10	出所するのを楽しみにしている	4	3	2	1
11	今の刑務所での生活をがんばって、なるべく早く出所したいと思う	4	3	2	1

質問9 住民票 や年金のことについて、あてはまる番号に○をつけてください。

ア. 自分の住民票 がどこの市(区)役所または町(村)役場に登録されているかを

- 1 知っている
- 2 知らない

イ. 年金のしくみや資格について

- 1 知っている
- 2 知らない

\*\*\*\* 次のページに進んでください\*\*\*\*

質問10 次のことについて、あなたはどのように思いますか。右の回答欄の「そのとおり」から「ちがう」までの4つの中から、あなたの考えや感じ方に合っているものを選んで、右側の回答欄の1から4の番号のうち1つに○印をつけてください。

		かい 回	とう 答	らん 欄	
		その と お り	そ の と お り	や ち が う	ち が う
1	犯罪の動機にはやむをえない事情がある。	4	3	2	1
2	交通違反や、ちょっとした犯罪は偶然に起こす場合が多いと思う	4	3	2	1
3	薬物の使用など、他人に直接迷惑のかからない犯罪をそれほど厳しく取り締まる必要はないと思う	4	3	2	1
4	窃盗未遂など、結局だれも実際の被害にあわなかったのなら、大きく騒ぐこともないと思う	4	3	2	1
5	スリの被害者になる人は、注意深さが足りない	4	3	2	1
6	暴力事件の被害者になるような人は、相手を怒らせるようなことをしているのだと思う	4	3	2	1
7	犯罪の取り締まりや捜査に当たって、すべての人が公平に扱われているとは思えない	4	3	2	1
8	法律がいつも正しいとは言えない	4	3	2	1
9	自分の大切な人たちのために、法律を破らなくてはならないこともあると思う	4	3	2	1
10	仕事におくれないようにと、スピード違反をすることは仕方がないと思う	4	3	2	1

\*\*\* これで終わりです。御協力ありがとうございました。\*\*\*